原子力新聞

発行所
原子力平和利用調査会
東京都千代田区丸の内2の8
電話 (28) 2777・1768
振替東京 93331

購読料
定価一部 20円（〒共）
一年分前金 200円（〒〃）

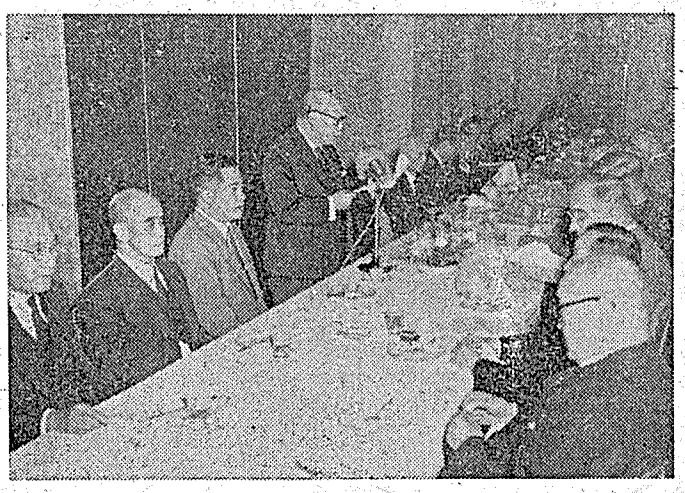
盛大に第2回総会

原子力平和利用調査会

百八十名が出席

小坂会長挨拶　米、英大使から祝辞

さる六月十八日に設立された原子力平和利用調査会は創設以来半歳を迎え、十一月十八日正午より三時間に亘り東京会館において第二回総会が開催された。先ず会長小坂順造氏の挨拶があり、つづいて業務報告を常任委員橋本清之助氏、各部会報告を部会を代表して岩田宙造、石黒忠篤、杉本朝雄、山崎文男、稲葉秀三の各氏から報告され、ついで駐日英大使デニング卿のメッセージをテポーティ博士がそれぞれ代読した。またアトミック・インダストリアル・ホーラム会長並びに印度原子力庁長官バーバ博士のメッセージが紹介され、引続き電力中央研究所理事長松永安左衛門、原子力研究所理事長石川一郎、科学研究所会長亀山直人の三氏から来賓挨拶があり、約一八〇人出席の下に盛大に行われた後、さらに別室において藤関信彦氏から原子力利用についての基本的解説がなされた。



第2回総会においてあいさつする小坂会長

なお、当日小坂順造氏は本総会に来会された方々に対し、「日本産業構造の課題」を贈呈された。

原子力研究所の首脳陣きまる

財団法人原子力研究所の理事長に経団連会長石川一郎（兼任）、副理事長に工業技術院長駒形作次、常務理事に東電取締役建設部長久布白兼致の諸氏がこのほど決定した。なお読売新聞社々主正力松太郎、電力中央研究所理事長松永安左衛門、電源開発会社総裁小坂順造の三氏を相談役に委嘱した。

堅実な政策展開に貢献

情報資料の蒐集に努力

原子力平和利用調査会創立以来の事業経過を御報告申し上げます。

本会はさる六月十八日設立いたしまして以来、会長より委嘱しました二十六名からなる運営委員会を中心にほぼその予定の事業を遂行してまいりました。

その事業の実際的な中軸をなすものは四つに分れた部会であります。すなわちわが国におけるエネルギー資源の総合調査を担当する総合エネルギー部会、これは安芸皎一博士が主査として十九名の委員から成立っております。第二は内外の原子力法制問題を担当する法制部会でありまして主査に岩田宙造博士をお願いし十五名の委員によって組織されております。原子力の平和利用の一つとして放射性同位元素の利用とその安全に関する問題を山崎文男博士を主査として九名の委員にお願いし、さらに内外の原子力情報資料を調査する渉外資料部会に杉本朝雄博士を主査として六名の委員にお願いしてそれぞれ今日まで活発な活動をしております。詳細は後刻、主査の方々からそれぞれ報告があると存じます。なお最近わが国において原子力開発の機運がとみに動いてまいりまして今後の政府の財政または民間経済界がこれが受けいれる将来の見通しなどの問題は、重大な課題でありました。したがってかような問題について調査をする必要を感じまして中山伊知郎博士を主査とする十四名からなる経済部会を設置しました。今後研究調査の結果も逐次御報告出来ることと存じます。

本会は原子力の平和利用について各国から情報資料を蒐集しておりますが、特に米国のアトミック・インダストリアル・ホーラムとは密接な連絡を保ち現にその会員として加盟しております。さる九月二十七日から三日間ワシントンにおいて第三回年次大会が開かれ、本会から電源開発株式会社の川村泰治、三菱造船の山本三郎の両氏を委嘱して出席してもらいました。二、三日前帰朝した川村君から後刻概況の報告があります。

アメリカのホーラムと同様、昨年六月ヨーロッパの各国が協同して組織されているヨーロッパ原子力協会とも本会は密接な連絡を取っておりまして、先般理事ランダース氏の紹介によって会員として加盟する手続を進めております。申すまでもなく世界の原子力の開放は、まだその緒についたばかりでありまして、核分裂反応から融合反応の研究にまで進んでおりまして、その進歩は今後十年、二十年の間にどんな秘密が人類の力によって開かれるか分らないのであります。したがってわが国としては際物的に性急な政策を取るよりも一歩、一歩自らの基礎的力を養って行くことに努力すべきでありましてこの点特に注意したい。

以上申しましたように、本会はわが国の原子力開発について当面する重大な諸問題を、その道の権威者、専門家諸氏の御協力によって各部会の御熱心な調査研究を願ってこれを政府当局ならびに関係方面に参考としてその意見を発表し、時に勧告建議して原子力の平和利用に関する公正かつ合理的な開発に協力致したいと存じます。これがために本会は特に各界の権威者、専門家がお集まり下さって各界のそれぞれの意見を総合調整して原子力政策の展開に堅実な進歩に貢献しておるのであります。

今一つ本会の事業の主たるものは原子力開発に関する知識情報資料を蒐集して、これを各方面に周知させること、一般の原子力に関する科学的知識の普及であります。現在、本会が蒐集しております各種情報資料は各方面から非常に利用され、その配布を希望する向が非常に多くなっております。また月例講演会には各会社団体の少壮、中堅の方々の出席者が多数で、むしろ制限するのに困っております。過般九週間にわたる講習会を計画したところ、聴講希望者が予定の二倍以上になりましたために、やむなく臨時に一組を増設した次第であります。これを要するに原子力に関する各方面の関心は非常に増大しておりますので、出来るだけその御要求に応じて一般の知識向上のために努力いたしている次第であります。

本会の事業開設後、わずかに半ヵ年にもかかわらず各方面から本会が注目されて参りました理由は本会が公正な立場を持し、各界の賢員、知識を総合調整して、堅実な原子力政策に貢献して行くという民間の団体であること、しかも海外の有力な原子力研究団体と直接な連絡を保ち、絶えず新しい正確な情報資料を集めているという点にあると信じます。

協力により所定の事業実施

小坂会長挨拶

本日原子力平和利用調査会の第二回総会を開くに当り御案内申し上げましたところ、御多忙中原子力開発の先進国である英、米両国大使代理をはじめかくも多数御出席を賜りましたことは誠に感謝と喜びに耐えないところであります。

当調査会はわが国の原子力平和利用を進め、産業経済の発展と国民の福祉増進に貢献したく、皆様の御支援の下に去る六月十八日発足したのであります。この間皆様の御協力を得まして所定の事業を実施いたしましたので、その経過報告を申し上げ、併せて今後の業務方針等について御高見賜りたく存じますので何卒よろしく御願い申し上げます。

なお本日は御出席の方々へ「日本産業構造の課題」という書物を御手許に差し上げましたが、本書は財団法人電力経済研究所の事業として中山伊知郎氏を会長とする我国の産業構造に関する研究会を設置し、一年有半にわたる調査研究を進めました成案でございます本書には戦争中種々なる事情によって散逸した貴重な資料が集められており、占領政策によって改変した新しい制度の動きとも関連して過去から現在にわたってわが国の産業経済全般の動向と実体が検討され、かつ、将来への展望も試みられており、特にエネルギー問題については原子力開発の重要性が指摘されております。

このようにわが国の産業経済の発展の上に必要な各般の施策があらゆる角度から検討展開され、特に我国のエネルギー資源の将来と原子力開発の重要性についても貴重な研究調査が発表されておりまして特に御参考に供したくここに贈呈申し上げた次第であります。

総会へ各国がメッセージ

原子力平和利用調査会の第二回総会に駐日英大使デニング卿のメッセージをヒル書記官が代読、駐日米大使アリソン氏のメッセージを科学アタッシェ・テポーティ博士が代読すると共に、当調査会がわが国唯一の会員として加盟しているアメリカ最大の民間原子力研究団体であるアトミック・インダストリアル・ホーラム会長ウォカー・L・シスラー氏、さきのジュネーヴにおける原子力平和利用国際会議で議長であったインド原子力庁長官H・J・バーバ博士からも電報をもって次の如くメッセージがもたらされた。

駐日アメリカ大使　J・M・アリソン

本日のこの総会が日米間で正式調印された原子力協定その時期が一致しております。わが国との原子力協定は多くのアジア諸国と調印されておりますが、アジアにおける原子力開発については必ず日本がそのリーダーシップに立つことと信じております。このことはサンフランシスコからローマ間、すなわちアメリカとイタリアとの間には多くの自由諸国がありますが、科学技術における教育が日本ほど進んだ国がないからであります。原子力平和利用の発展にあたっていることを知りましたことに欣快にたえないところであります。

駐日イギリス大使　E・デニング

この原子力平和利用調査会の第二回総会に対しましてメッセージをお送りできることは、わたくしの喜びとするところであります。

原子力平和利用の開発の分野においては、日本における問題とイギリスにおける問題との間には多くの共通点があります。特に原子力発電所に関することは、日本はイギリスがなしつつあることを関心をもってみていることをわたくしは知っております。

御承知のことと思いますが、イギリスにおいては天然の燃料資源が枯渇しつつあります。しかし、幸いなことには他の動力資源を見付けることができたのであります わたくしは日本の科学者達が同様な問題を研究しつつあることを知っておりますし、ハーウェルにあるイギリス原子力公社の研究所が今年のジュネーヴ会議の後で、イギリスを訪問した日本代表たちを歓迎したことをうれしく思います

われ〳〵イギリスは、日本の原子力開発を同情的な関心を持ってみているのであります。

（ヒル三等書記官代読）

アトミック・インダストリアル・ホーラム会長　ウォカー・L・シスラー

アトミック・インダストリアル・ホーラムは原子力平和利用調査会の第二回総会に対して衷心より御あいさつを送るとともに、併せて総会の原子力開発についての討議が人類の福祉のために貢献するよう希望致します。

インド原子力庁長官　H・J・バーバ

原子力平和利用開発国の全面的な工業化のためにまた人類の文明の維持と将来の発展のために原子力は必要欠くべからざるものであります

わたくしは、原子力の平和利用を促進し、かつ軍事利用を禁止しようと努力するすべての人々に対して心からのあいさつを送ります

業務報告

橋本常任委員

原子力平和利用調査会の第二回総会に当り御案内申し上げましたところであった日本産業構造の課題を出席者の全員にたいし贈呈された。

本書は財団法人電力経済研究所（理事長小坂順造氏）の事業として中山伊知郎氏を会長とするわが国の産業構造にかんする研究会を設置し、一年有半にわたる調査研究を進めた成案であって、内容には戦時中いろ〳〵の事情によって散逸した貴重な資料が七〇〇種にわたって収められており、占領政策によって改変した新しい制度の動きとも関連せしめて、過去から現在にわたってわが国の産業経済全般について動向と実体が検討され、かつ将来への展望が試みられており、とくにエネルギー問題について原子力開発の重要性が指摘されておるのである。

したがって本書は日本経済建設のための礎としてひろく各方面の参考になる論述であるとの考えから、十編一、五〇〇ページを上下二巻に取りまとめたものである。

なお本書は広く政界、学界経済界等の千余名の方々にたいしてそれ〴〵贈呈せられた

各界千余名に贈呈

日本産業構造の課題

★R・L・マレイ著・杉本　朝雄訳　A5・三八二頁　七五〇円
原子核工学
Introduction to Nuclear Engineering 1954の完訳
各種原子炉の設計、操作、特徴、利用等一切を具体的に解説す

★W・アイザード・V・ホイット二一共著
阿部滋忠・村田　浩共訳　A5・三四〇頁　五〇〇円
原子力発電
──その経済的社会的分析──

★日本鉄鋼協会編　A5・五〇〇頁　八五〇円
工業計測
「原子力の平和的利用」は今や我が国の知識人の関心の的であるが本書はその産業に及ぼす影響につき経済、社会的に分析する
あらゆる産業に携わる管理技術者、現場技術者が日常行う計測操業に絶対必要とされる実用計測ハンドブックである

東京・日本橋　丸善

松永 石川 亀山 三氏があいさつ

原子力平和利用調査会第二回総会

原子力平和利用調査会第二回総会は、十一月十八日東京会館で盛大に開催され、小坂会長のあいさつ、各部会報告、各国代表のメッセージ紹介のあと、電力中央研究所理事長松永安左衛門、原子力研究所理事長石川一郎、科学研究所会長亀山直人の三氏から来賓を代表してつぎのようなあいさつがおくられた。

「受入れ態勢」固めよ

必要な基礎的調査

電力中央研究所理事長
松永安左衛門氏

御指名がありましたので一言いたしまして、これまで数々の資料を小坂会長並びに協力しておられる皆さん方にいただいております。また将来もいろいろと必要な資料をいただき、かつこちらもできる限り何らかの御尽力を申し上げたいと思うのであります。これであいさつは終っておるわけでありますけれども、折角御指名をいただきましたので、少し、しゃべらしていただきます。

わたくしは長く電力界に関係しておりまして、原子力というものを日本に使うということは非常にむずかしいものであるということを、昨年アメリカに行っていろいろと感じて帰ったのであります。その後いろいろの催しもあり、また政府でも非常な熱意をもってこの問題をお取り上げになっておるそれにもかかわらずはなはだ悲観的で、これはなか〳〵容易でないことであると同時に、それだけ骨を折らなきゃならん、えらいことだということを感じております。

が、その感じは今も少しも捨てておらず、ます〳〵困難なえらいことだということを感じるのであります。その感じの一、二を申し上げて、お前は老人であまり心配が多過ぎるというおしかりを受ければ非常に幸せであります。非常に同情していただくとまた失望するわけであります。

第一に原子力を平和利用に使うということは最も必要であり、最も急がなければならん国は世界中で日本が第一であるということである。しかるにこの技術の問題、これをあらゆる産業に使って行く上の問題、また濃縮ウランを輸入してやるということは無論のことでありますが、一体その原料がはっきりしない。それからその原料があったやつを原子炉にもっていく、一体日本にそのパワーがあるかどうか。おそらくは電力界としては、その原子力の方に多く使うパワーがありません。これをどうするか。原子力をやってから作るということであれば別でありますけれども大きな問題であります。

現在大きなダムを電力会社としてやっておるが、これとても日本では数が限られておる。あとは非常にコストの高いダムによらざるを得ない。そのような発電施設が一千万キロ以上にのぼっておりますこれは非常にコストが高いもので問題にならない。そうすると有利な水源地帯というのはもはや四年ないし五、六年でなくなってしまう。石炭、石油の問題をお考えになってみても、あるいは新潟方面でできております地下ガスの問題、あるいはイタリアの地熱の問題、かれこれいろ〳〵考えてみましてもその原料が非常にアメリカ、カナダその他に比べてほとんどお話にならんほど貧弱であること。しからばその原子力利用が必要の面が非常に多い割合に原料の問題、あるいはそれを作る問題、あるいはそれに代る水力の方も、あるいは燃料というものがないということになりますと、これは如何なることになるかと、一体その原料はっきりしない。それからその原料があったやつを原子炉にもっていく、一体日本にそのパワーがあるかどうか。おそらくは電力界としては、その原子力の方に多く使うパワーがありません。これをどうするか。原子力をやってから作るということであれば別でありますけれども大きな問題であります。

第二回総会々場（あいさつするは松永氏）

中正、健全な会の意見

日本の国情に合った開発を

科学研究所会長
亀山直人氏

原子力平和利用調査会は去る六月十八日に設立され、それからわずかまだ半年にならないのでありますが、非常に活動をよくされまして、わたしども科学技術者としましては大変便利をしておるのであります。

まあ第一にわたくしが批評しては悪いかも しれませんが 濃縮ウランを受入れるにつきまして一部の人から 批判が出まして、新聞などを見ますと大分国論がわれそうになったときがありましたが、そのときこの原子力平和 利用調査会が非常に中正な、わたくしは何でも 判断を常識で判断をするのでありますが、中正なそうして健全なる常識で非常によく了解できる意見を発表され、これはおそらくあの御意見で日本中が大体一致したことかと思うのであります。そういう中正な意見を発表されるという事は非常に結構なことだと思っております。それから文献を非常によく整理して、みんなに周知させるということ、これはもう非常にわたくしどもには有難いことであります。原子力関係の文献というのは非常にほう大でありまして、国会図書館などでもトラックに何台もアメリカから入っているようなのであります。それをさっき杉本君のお話にありました通りよく選択して、そうして日本語に訳してみんなに配布するというのであります。この選択するということが大変な事であります。しかも日本語に訳して配布されるということはわたくしは非常に日本のいろいろな原子力の関係の方々技術者、政治家、経済家、その他すべての人のための労力を節約するので大変な原子力平和利用調査会のサービスだと思っております。

それから先程松永さんが、これは非常に必要であるけれどもむずかしいことだということをおっしゃいましたので、私は必要であってむずかしいことだということには全く松永さんと同様なのでありますが、しかしそのむずかしいことを日本人はやりとげられるであろうと思うのであります。そのことを一言付加えたいと思うのであります。わたくしは化学工業の方に多少関係しておりますまるけれどもこれを日本人は、まさに外国人が日本の化学工業を見たらどうであろうかということをわたくしはときどき考えるのであります。そういたしますと、わたくしは非常に日本人は能力があると思うのであります。それでこの化学工業は一つのいいサンプルを示しておりますので、原子力の方でも同じであろう。こういう類推をしておるのであります。日本の化学工業が何も資源なしでやっておるのでありまして、実際何もない、あるものは硫黄が少しあるだけでありまして、化学工業の母とも称する塩などもほとんどないのであります。イギリスでは塩水の中にある塩一ポンドが一銭、つまり一磅千円でありますから、その二十分の一である一銭が五十円でありますが、その五十円にならない塩でソーダを作っておるのであります。日本は国内で作りますと一万円するのであり、輸入しましてもそれと同じくらいかかるのであります。それに対抗して、そうしてソーダを作っておりまして、ソーダの産額などは非常に大きいのであります。大体化学工業で申しますとアメリカが世界第一であり、次に英独、それから仏伊がくるのでありまして、日本はオリンピックと同じである種目についてはこれがアメリカを超えて世界一、多くは英独に伍したり、あるいは英独を超えておるよう な次第でありましてこれは原料がなにもなくて、そうしてこういうことをやっておるのでありますが、これは日本人の能力がどこにあるかはいろいろ分析し、研究せねばなりませんが、ある一つの例を申しますと、たとえばベンベルグ会社などで第一の非常な相違は、アンモニア合成会社自身がベンベルグをやる。こういうことはほかの国ではありませんそういう相違が、根本でありますが、また非常に薄い〇・〇四%というようなアンモニアを日本では回収しておるのであります。ほかの国ではそういうことはできません。そのほか銅を使うとか、銅を回収するとか、アメリカでは人間が高いから人間を節約する自動機械を作っておるのであります。日本ではものが高いから物を非常に節約をしてやっており、これは日本の化学工業の一つの特徴かと思う。これは非常に非科学的な申し上げ方でありますけれども、何らか日本人は工夫すると、いうことになるから出せないとか、あるいはそういう事は大き過ぎて、突飛過ぎるからまだ日本じゃ早過ぎると言っておりますが、もう少なくとも十年後に日本がどうしてもやらなければならない原子力、そのつぎになる仕事については朝野茫然としておるようなことでは原子力を受入れる態勢はできないと私は思う。

そして朝野がこの調査研究という以外に、あるいは電力会社というものが現在の電力を非常に近代化して工業国にして、この来るべき十年あるいは十二年後に原子力を受入れる態勢というものができなければ何としても入れられないということはっきりした事実であります。これは甚だ大きな話をするようでありますけれども、われわれ電力界においての使命は非常に重大でありますので、みずからせめておるわけでありますが、どうぞ朝野の諸君もその点においてよく認識していただきたいということを申し上げて御挨拶といたします。

大切な"協力の雰囲気"

期待される将来の成果

原子力研究所理事長
石川一郎氏

今日は御招待をたまわりまして有難うございました。何か話せということでございますので今日は自分の恥をお話したいと思います。それでわたくし原子力の平和利用ということはアメリカの大統領がちょうど二年前の十二月八日に発表されたのでありますが、その後これをどういうふうに迎えていくかということは、これは盛んに言われたことであります。

私は昨年一月に日本航空会社の用事であちらに二週間ばかり行って参ったのでありますが、時間が短かかったものですから、そのときは日本の航空工業に対して考えをまとめておきたいと思いまして航空工業を主として参ったのでありますが、たつ前の日になりましてカリフォルニア大学の原子力施設を見せるから来ないかと、こういうお話があったのでございますこれは非常にいいチャンスでございますので喜んで伺ったのでありますが、そうしてまたいろいろ御案内を願いました。大きな施設はまだ建設中のものもありまして、すっかりそういうところを見せていただいて帰ってきたのでありますが、その時分から小坂さんにおかれましては前の電力経済研究所において、それをパンフレットにしてお出しになりまして、私もそれを頂戴して読んでおりました。その後ここに平和利用調査会をお作りになりまして今お話がありましたように経済、エネルギーあるいは渉外問題、あるいはその他の事につきまして調査を着々としてお進めになっていることもよく存じておりまして、その御努力に対して私は非常な敬意を払うものでございます

今年六月アメリカに参りましたので原子力関係について見てきたいと思いまして電力関係とか御関係のある方にだけしか御案内を差上げなかったのであります

っておる次第でございます。これは実は原子力研究所は一部寄附金でやりますのですがあまり御関係のない方に寄附金をお願いするのもどうかと思いまして電力関係とか御関係のある方にだけしか御案内を差上げなかったのであります

に有難くお礼を申し上げる次第であります。

原子力の問題は非常に遅れております。日本におきましては政府政党あるいは産業家、学者はもちろんのこと、大衆もこれにみんな協力して早く進めていくというよ

うな雰囲気ができなければならないと思っておるのであります。そういう空気が特にこの知識階級方面に小坂さんの御努力で出来上っているということは非常にわたくしは有難く思います。どうかわたくしもできるだけやりたいと思いますが、将来ともいろ〳〵と御支援を賜りますことと思いますが、この研究が将来日本の原子力の行き方につきましていろ〳〵な参考にもなり、いろ〳〵な示唆にもなると考えましてこれからの御研究も大いに期待をしておる次第でございます。どうかわたくしは微力で原子力については何ら知識がないのでありますが、ただあちらの研究所も方々見まして研究所というものの原子力の行き方はどう持っていったならばいいかということについて多少夢を持っておりますので、その夢が果して実現できるかどうか、あるいは飛び離れておるということであれば申し訳ないことになりますが、できるだけその夢を現実化して原子力平和利用について将来とも何分よろしくお願い申し上げます。

原子力平和利用調査会編集

世界の原子炉表

▼本書を一冊買うことによって、世界における九〇基の稼動、建設、計画中の原子炉の種類、型式或は出力、その内容を余すところなく知ることが出来る。

▼この原子炉表は去る八月ジュネーヴで開催された国連主催の原子力平和利用国際会議においてミネソタ大学のハーバード・S・イスピン氏によって発表されたものに、特に世界的に有名な原子炉の写真十五葉と参考文献を補充し、現在建設中の四〇基は勿論、建設並びに計画中のもの五〇基が収録してある。

▼内容　各原子炉について、国別、名称、所在地出力、並びに中性子束、燃料、炉心部の構造、反射壁、寸法、制御方法、冷却剤、始動の時期

発行所　東京都千代田区丸ノ内仲十一号館
原子力平和利用調査会
電話(68)二七七七・一七六八番
振替東京九八、三八一番

A5版・80頁
定価 送料共 300円

「日米原子力協定についての見解」を発表

現在「原子力法」を研究中

法制部会報告……岩田宙造

この法制部会が第一に取り上げましたのは、日米原子力協定にかんする問題でありまして、これは電力経済研究所当時から、研究に着手しており、この法制部会がそれを引き継いでいます。

この日米原子力協定という問題は、八月八日の第一回合同部会で研究を始めまして、さらに、法制部会で検討を重ねることとなり、八月十六日に第一回の法制部会を開き検討を加え、その調査研究の結果、原案がここにまとめられ、九月一日に、原子力平和利用調査会の名において『日米原子力協定についての見解』と題する印刷物を、広く各界に配布し、参考に供すると同時に、関係者ならびに一般の理解を深めることに努力いたしました。

次にこの法制部会で問題になりましたのは、わが国の原子力法に関する問題であります。これは九月二十八日にこの法制部会で第二回の会合を開き、協議の結果、わが国原子力法の要綱草案を作ってみることに決定し、現にその研究を継続しております。そのため第三回の法制部会を十月十五日に開催し、経済企画庁原子力室の阿部滋忠氏をお招きして、原子力法の政府案についての説明を聞いたのであります。ついで、十一月九日に、第四回の法制部会を開催、北大の金沢良雄氏と愛知大学教授の入江啓四郎氏の両氏をお招きして各国の原子力法並びに産業に関する問題について、懇談、検討を行ったのであります。従ってわが国の原子力法はどういうものを作るかということにつきましてはまだ研究中であります。従ってこの機会にどういう法律を作ったらよかろうということについてなにかお考えがありましたら御指導を願いたいと思います。

なお原子力法について私個人の考えとしましては、初めから新聞に出ておりますような膨大な、微に入り細をうがつような細かい規定を一挙に設けるという事は適当ではないように考えるのであります。それよりもまず、内閣直属のような根本機関を一つ設け、だんだん法規、制度を作っていったらいいのじゃないか、却ってその方が手っ取り早く進行するのであって、初めから細かく作ることは、不適当でもあり、却って仕事が遅れる因ではないかと思うのであります。

……法制部会委員……

▽主査岩田宙造（法学博士）▽委員　後藤文夫（参議院議員）藤井崇治（電源開発株式会社副総裁）椎名悦三郎（衆議院議員）佐島敬愛（国際商工会議所日本国内委員会事務総長）佐々木義武（経済企画庁計画部長）田中慎二郎（朝日新聞社監査役）伏見康治（理学博士、大阪大学教授）大塚茂比古（日本学術会議原子力委員会）田中好雄（工業技術院原子力課）堀誠毅（朝日新聞社調査研究室）松純郎（工業技術院原子力課長）松井佐七郎（外務省国際協力局第三課長）森一久（中央公論社）山根寛（岩田法律事務所）湯原昭（電源開発株式会社企画部調査課）渡辺一郎（日本学術会議原子力委員会）

各部会からの報告要旨

「利用の実態」カード作成へ

放射能からの健康防禦も

放射性同位元素部会報告……山崎文男

当部会は最近仕事を始めましたのでありますが、まだ大して本格的な仕事を進めておりません。御承知のように放射性同位元素は原子力の事業の一つとして非常に大きな地位を占めております。

従ってわが国におきましても将来原子力の計画を立てるということになりますと、この方も同時に考えていかなければならないと思います。

またこの利用に伴ないまして放射性による危険ということも考えられますので、この部会としましては調査研究を、わが国の放射性同位原素に関する実態調査と、それからわが国の将来の放射性同位元素についてのいろ〳〵の問題について進めるということにいたしております。

放射性同位元素は日本においても広く利用されており、この実態を調査するということが将来大きく進むために必要であります。現在放射性同位元素を使いたいという人はスタックに申請書を出しておりますので、申請書をもとにしまして、必要項目について抜き書したカードを尋までに作り上げたいと思っております。

それから、この危険なアイソトープを使われる方はその放射能に対して健康はどういうような結果になっておるかということもわかると思いますので、この調査をいたそうとしている次第であります。

……放射性同位元素部会委員……

▽主査山崎文男（理学博士科学研究所主任研究員）▽委員中泉正徳（医学博士東京大学医学部教授）磯永俊太郎（農学博士農業技術研究所長）宗宮尚行（理学博士東京大学工学部教授）平田穣（科学研究所）森栄華（科学技術行政協議会事務局）水池敦（東京大学工学部応用化学教室）長谷川誠一（通産省軽工業局無機化学課）野口照久（東京大学医学部栄養学教室）池田長生（理学博士東京教育大学助教授）

目的を原子力発電に

発展過程、需用、供給力を調査

総合エネルギー部会報告……石黒忠篤

総合エネルギー部会の、まず経過について御報告申し上げます。

当部会の調査研究は、当原子力平和利用調査会が発足いたします前に、電力経済研究所の中に設けられました新エネルギー委員会におきまして、相当調査研究が重ねられておったのでありますが、この調査会に総合エネルギー部会が設置されるに及びまして、それを継承いたし各エネルギー部門につきまして研究に当り現在それぞれ草案が取りまとめられておるのであります。

そこで総合エネルギー部会の調査研究目的はどこにあるかを申し上げたいと思います。従来わが国におけるエネルギー問題は、主に量的な面を論じられて参ったのでありますが、当部会におきましてはこの外に特に質的並びに経済的部面を論じましてわが国における総合エネルギー政策の樹立と原子力発電計画に資することにいたしたいのであります。

その研究調査の事項は

▲エネルギーの発展過程の把握

▲わが国将来の産業構造を考慮しつつエネルギー需用への想定

▲将来におけるエネルギー供給力とその問題点。

というところに、重点をおきたいと存じております。

現在までに二回当部会を開催致しましたが今後本調査研究の取りまとめをどうするかということについて近く協議決定をみることになっており、検討方法については原案執筆者による小委員会を設けてこれに付託をするということになっておるのであります。

……総合エネルギー部会委員……

▽主査安芸皎一（工学博士、資源調査会副会長）▽委員石黒忠篤（参議院議員）内田俊一（工学博士、東京工業大学々長）駒形作次（工学博士、原子力研究所副理事長）斎藤三郎（電源開発株式会社理事）竹内俊一（三菱石油株式会社々長）中谷宇吉郎（理学博士、北海道大学教授）西島直己（三菱鉱業株式会社副社長）黒川真武（工学博士、工業技術院々長）杉本朝雄（理学博士、科学研究所主任研究員）田中慎次郎（朝日新聞社監査役）伏見康治（理学博士、大阪大学教授）水岡平一郎（発送電興業株式会社々長）阿部滋忠（経済企画庁技官）石井正哉（三菱石油株式会社市場調査課長）馬場有政（工業技術院資源技術試験所々長）藤関信彦（電源開発株式会社調査課長）藤波恒雄（通産省公益事業調査課長）藤田昸三（石炭協会生産部次長）堀純郎（工業技術院原子力課長）

海外の情報、資料を邦訳刊行

渉外資料部会報告……杉本朝雄

当部会のやります業務については、海外の原子力情報及び資料の収集とそれから得た原子力資料の中から日本の原子開発に適当なものを選び出しまして、これを邦訳し、刊行して会員各位へ配付し、また国内の原子力情報及び資料を選び集めてこれを刊行してお配りする。それから海外関係機関との情報、資料の交換もやっております。

部会は毎月一回やることにして現在までの当部会における資料の発行状況を簡単にお話しますと、定期的に刊行しておりますものとしましては第一に原子力情報、それからアトミック・インダストリアル・ホーラムの発行しておりますホーラム・メモというものの中から適当なものを訳しまして、これを選び定期的に刊行しております。そのほかに今日御覧のお手元にお配りしましたものの中に原子炉表というのがありますがこれは先般ジュネーヴ会議での資料を訳して、それに二、三写真を加えて編集致しました。それから原子力関係の用語はまだ今のところかなり不統一でありますので、これをなるべくできるだけ集めまして再び訳語集を作っております。

……渉外資料部会委員……

▽主査杉本朝雄（理学博士、科学研究所主任研究員）▽委員矢木栄（工学博士、東京大学教授）同橋口隆吉（工学博士、東京大学教授）藤関信彦（電源開発株式会社企画部調査課長）阿部滋忠（経済企画庁企画二課）湯原昭（電源開発株式会社企画部調査課）森一久（中央公論社）立花昭（電源開発株式会社企画部調査課）

総合エネルギー部会報告をする石黒委員

産業経済への影響など研究へ

経済部会報告……稲葉秀三

当部会については去る十一月十四日に委員の御承諾を得たばかりでまだ部会は開いておりません。従って委員各位の御意見を伺っておりませんのでまだ当部会としてはどんな問題を取り上げていくかということにつきまして確定的な御報告ができませんけれども、わが国の原子力開発の経済的方式、特に一般財政との関連とか、あるいは投資能率の検討、あるいはまたわが国におきまする原子力開発の産業経済への影響、これを中心にいたしまして今後検討をしていきたいと考えております。次回の総会には何らかの成果を御報告申し上げたいと思っておる次第であります。

……経済部会委員……

▽主査中山伊知郎（経済学博士一橋大学教授）▽委員安芸皎一（工学博士、資源調査会副会長）大屋敦（住友ベークライト相談役）岡松成太郎（日本商工会議所専務理事）高井晃太郎（東京電力株式会社々長）藤岡由夫（理学博士、東京教育大学教授）古沢潤一（元日本銀行理事）稲葉秀三（国民経済研究協会理事長）小坂徳三郎（信濃化学工業株式会社副社長）鹿内信隆（日本経済団体連盟専務理事）阿部滋忠（経済企画庁技官）小島慶三（通産省鉄鋼業務課長）堀純郎（工業技術院原子力課長）岡角良彦（通産省官房調査課長）川村泰治（電源開発株式会社調査課々長代理）

第二回総会の出席者名簿

◇調査会の役員関係

原子力平和利用調査会長　小坂順造

電力中央研究所理事長　松永安左衛門

法学博士　岩田宙造
参議院議員　後藤文夫
参議院議員　石黒忠篤
電気事業連合会会長　菅礼之助
東京急行電鉄会長　五島慶太
アジア協会副会長　永野護
科学研究所会長　亀山直人
日赤中央病院長　都築正男
日立製作所会長　倉田主税
東京大学教授　大山松次郎
産経新聞社長　勝田貞次郎
北海道電力社長　藤波恒雄
東北パルプ社長　高田良作
朝日ビール社長　山本為三郎
中部電力社長　井上五郎
電力経済研究所理事　後藤隆之助
国家公安委員　小汀利得
東京電力社長　高井晃太郎
石川島重工社長　土光敏夫
日本農業研究所長　石井英之助
三菱石油社長　竹内俊一
日本ビール社長　柴田清
三井造船社長　加藤五一
経済企画庁計画部長　佐々木義武
電気事業連合会専務理事　松根宗一
大蔵次官　平田敬一郎
旭電化工業社長　東海林武雄
三菱化成工業社長　桑田晴一郎
古河電気工業社長　小泉幸久
三菱造船社長　丹羽周夫
富士銀行常務取締役　岩佐凱実
住友商事常務取締役　工藤久夫
農林次官　平川守
八幡製鉄社長　渡辺義介
日本長期信用銀行常務取締役　宮崎一雄
大阪商船社長　伊藤武雄
富士電機製造社長　和田恒輔
電源開発副総裁　藤井崇治
東京工大学長　内田俊一
東京都民銀行頭取　工藤昭四郎
日本商工会議所専務理事　岡松成太郎
経団連副会長　植村甲午郎
ラジオ東京社長　足立正
東京大学教授　有沢広巳
日清紡績社長　桜田武
富士製鉄社長　永野重雄
住友化学工業社長　土井正治
味の素会長　鈴木三郎助
特殊製鋼社長　石原米太郎
島津製作所社長　鈴木庸輔
日東紡績会長　藤井深造
日本ベークライト会長　片倉三平
東洋綿花社長　大屋敦
日本化学工業社長　鈴木重光
日本瓦斯協会々長　大塚寛治
三井鉱山社長　千金良宗三郎
日本曹達社長　梁木晴
三井銀行頭取　大和田悌二
国際電気社長　佐藤喜一郎
日本カーバイド工業社長　町田辰次郎
日綿実業社長　奥村政雄
元三菱銀行頭取　岡島美行
日本製鉄社長　本田弘敏
中部日本新聞社長　与良松三
信濃毎日新聞社長　小坂武雄
東亜合成化学工業会長　久留島通彦
三和銀行頭取　渡辺忠雄
富士紡績会長　堀文平
三菱金属鉱業社長　羽仁哲之
神戸製鋼社長　浅田長平
住友金属鉱山社長　田中外次
日本軽金属社長　草野義一
日本酸素社長　高橋直行
日本住宅公団総裁　加納久朗
日清製粉社長　正田英三郎
日本勧業銀行頭取　堀武男
三菱商事常務取締役　寺尾一郎
文部次官　田中義男
川崎重工業社長　手塚敏雄
国民経済研究協会理事長　稲葉秀三
信濃化学副社長　小坂徳三郎
日本経営者団体連盟専務理事　鹿内信隆
日本経済新聞社　小倉謙
東京新聞　〃　金須正夫
毎日新聞　〃　福良俊之
日本経済新聞社　友光正昭
西日本新聞社　長谷部成美
時事通信社　安部慶一
電源開発株式会社　大林組
（株）熊谷組　鹿島建設
（株）間組　前田建設工業
大成建設　西松建設
清水建設　藤田武雄
神部調査部　前田文英術
村上春蔵
桧垣順三
電源開発人事課長　川村泰治
通産省鉄鋼業務課長　小島慶三
電源開発企画部調査課　立花昭
工業技術院原子力課　田中好雄
東京大学教授　橋口隆吉
電力経済研究所事務局長　早川淳一
電源開発企画部調査課長　藤関信彦
通産省公益事業局調査課長　藤波恒雄
石炭協会生産部次長　藤田昸三
中央公論社　森一久
通産省大臣官房調査課長　岡角良彦
電源開発企画部調査課　湯原昭
電気事業連合会調査部長　渡辺一郎
朝日新聞社調査研究室　渡辺誠毅
科学研究所　平田穣
科学技術行政協議会事務局　森栄華
東京大学工学部　水池敦
通産省軽工業局無機化学課　長谷川誠一
東京教育大学助教授　池田長生

◇来賓関係

原子力研究所理事長　石川一郎
衆議院議員　池田勇人
同　小坂善太郎
同　三浦一雄
同　中曽根康弘
参議院議員　志村茂治
同　奥村勝
同　加藤武徳
発送電興業株式会社　佐々木栄好
読売新聞経済部長　戸田豊
産経新聞経済部長　仙正弘
日本経済新聞経済部長　小暮光三
産経新聞論説委員　友光正昭
日本経済　〃　福良俊之
東京新聞　〃　金須正夫
毎日新聞　〃　長谷部成美
日本経済新聞社　安部慶一
西日本新聞社　大西三千夫
電源開発株式会社　久保俊
（株）大林組　大林芳郎
（株）熊谷組　鹿島守之助
（株）佐藤工業　佐藤欣次
酒井建設工業　酒井利雄
清水建設　清水康雄
大成建設　藤田武雄
西松建設　西松三好
（株）間組　神部調査部
前田建設工業　前田文英術
大和土建　村上春蔵
電源開発人事課長　桧垣順三
電源開発調査課　川村泰治

米国の原子力研究機関見聞記

川村泰治

本紙第二号で、原子力平和利用調査会代表としてさる九月二十六日より三日間にわたって行われたアトミック・インダストリアル・ホーラムの第三年次大会に出席した川村泰治氏の大会の模様を報じたが、帰国後同氏から大会後アメリカ国内の原子力研究機関について次の視察報告が寄せられた。

草原の凹みに点在 アルゴヌ

オークリッヂ 飼馴らされた原子力

◇アルゴンヌ研究所　シカゴの町を外れて、東に二十哩ばかり、草原の中に、それも凹みをえらんで、外からみえない所に、白い円形ドームのCP－5の建物、赤煉瓦のラボラトリイ数棟、食堂ボイラー室、カマボコ兵舎をそのまゝつかった寄宿舎、又小さな研究室様のものが、何千エーカーにわたって、点在している。

所長のジン氏は不在で、副所長兼原子力学校長のヒルベリイ博士の所に案内された。原子力の経済的側面を主に勉強しているという、電話でAECのギャラン氏を呼んでくれ、それから三人で、自動車で構内をぐるゝ回り、原子炉原子温室、ホットラブ、原子炉学校、物理化学実験室、図書室など案内してもらった。この春行った藤岡博士らの視た所と全く同じである。詳細はそちらの報告書にあるので省くが、CP－5の燃料の濃縮度が七〇％、重水の漏洩は最近は全量六・五㍑に対し三－五㍑とのこと。回転扇形の遮蔽をつけた長い筒で、中性子のクレスト、スペクトラムの測定、その他炉を四方、八方からいろいろの機械でとりかこんで、種々の実験をやっていた。

原子力学校では、大山（東大助教授）伊原（工業技術院原子力課）両氏らの組が卒業したばかりで、開散としていたが、二百角位の小さな石墨炉があり、フェルミがシカゴ大学ではじめてやったように中性子源を挿入して、サブ、クリティカルにし、温度や中性子束の測定実験をやるのだと校長先生が手をとって教えてくれた。原子温室ではヒルベリイ氏が「14Cの入った炭酸ガスで光合成を行わせ、ジキタリスなど栽培し、患者にのませて心臓にどれ位行ったか調べる。この実験を完成するに三年かゝったが、実に面白い。

◇オークリッジ研究所　尋ねていったレーン博士は不在であったが、AECのフューラー博士と研究所総務のマーフィー博士の案内で、水泳プール型千KW、天然ウラン、黒鉛型のX10、その他冶金及ホットラブ、高圧ラヴ、アイソトープ包装室、図書室をみせてもらった。

ORRの操作盤では針はきっちり千KWを指し、記録紙にも、見事な直線がひかれていた。炉心は約でる通り背く怪しく輝いている。炉の大きさは六㍍角、深さは十㍍位か、炉心で熱せられた水がゆるやかな対流を起している。はじめみた時千KWなら湯気がたつだろうと思って、「今の出力は？」ときいたら「千KWだ」という。池に手を入れてみてもいいか？といったら「よい」というので入れてみた。風呂よりもまだぬるい。測ったら三十七度であった。それから一段高い操作盤に案内してくれたら、前に書いたようにきっちり、千KWであった。安全装置は三重位になっていて、その機器を一々説明してくれた。実験は水密になった鋼製円筒に、いろいろな試験片を入れ、炉心及は池のあちこちにつるしていたが、その数は少なく、至って開散に見受けられた。

天然ウラン炉の方は、階上、階下、測定装置でとりまかれ、一面はアイソトープの製造に忙しかった。二階のある中性子スペクトラム測定室では、測定結果はカタカタと回る記録紙に巻きとられているだけ。

こゝは研究所のうちでも設備は最も完備しているらしくマーフィー氏も大分得意であった。例の精巧なマスターアンドスレーヴも十六台ある由。全国各所の炉でできた放射性廃棄物はすべて此処に集められ、硝子パイプの一パイつまった無人の処理室で自動的に沃素、ストロンチウム、トリウム等有効物質に分けられている。あの恐ろしい原子力もここでは、まるで猫のように飼いならされて、おとなしく人間に奉仕している。

◇ブルックヘヴン研究所　三万KWの天然ウラン黒鉛炉、直径七十五㍍、ドーナツ型のコスモトロン、ホットラブ、セミホットラブ等々を見学した。直径三㍍、五㍍位のサイクロトロンは埃をかぶって、廊下の隅にゴロ〜ところがっている。ホットラブの設備はオークリッジほど完備していないようである。案内のフーラー氏が、セミホットラブで、マニピュレーターをちょっと操作してみせてくれようとしたら、旧式のギシギシするような代物であったせいか、フラスコがうまくつかめず横倒しになって中の液が、遮蔽硝子の向うの台上にこぼれてしまった。此処では新原理をつかって陽子を二五〇億㍍に加速する直径七五〇㍍のシンクロトロンを設計中また周知のように液体金属を燃料とするCMFRの研究をすゝめている。それについては電磁ポンプと炉の模型を応接間で見せてもらっただけで、現場案内はなかった。

調査会の動き

原子力平和利用調査会の向う一ヵ月間の事業予定並びに過去一ヵ月間の事業経過はつぎの通りである。

◇…事業予告…◇

一、原子力講習会（第一回第四日）　十一月二十四日

一、第一回経済部会の開催　十一月下旬

一、第三回放射性同位元素部会の開催　十一月下旬

一、第三回総合エネルギー部会の開催　十一月下旬

一、原子力講習会（第一回第五日）　十二月三日

一、第五回法制部会の開催　十二月上旬

一、原子力講習会（第二回第四日）　十二月五日

一、第三回月例懇談会の開催　十二月中旬

一、原子力講習会（第一回、第二回合同）　十二月八日

一、第四回放射性同位元素部会の開催　十二月中旬

一、第四回渉外資料部会の開催　十二月中旬

◇…刊行予定資料…◇

一、原子力情報十二月号（第十九号）の刊行十二月二十五日

一、原子力資料第二十五号の刊行　ジュネーヴ会議資料（原子力の経済性について）　十一月下旬

一、原子力資料第二十六号の刊行　アメリカにおける原子炉開発（原子力委員会年報より）　十二月上旬

一、原子力資料第二十七号の刊行　ジュネーヴ会議資料（原子炉の安全性）　十二月中旬

一、ホーラム・メモ（第三号）の刊行　十二月十日

一、原子力関係資料目録（第五号）

一、原子力資料第二十八号の刊行　ホーラム・レポート　十二月下旬

一、原子力訳語集（第二版）決定した　十一月一日

一、原子力講習会（第一回、第二回）の開催、日本学術会議原子力問題委員会大塚茂比古、原子炉の型式　電源開発株式会社調査課立花昭　談した　十一月十日

一、原子力放射性同位元素部会（第一回）の開催、放射性同位元素の実体の調査方法を協議した　十一月中旬

◇…事業経過…◇

一、十一月二日　第一回原子力講習会の開催（第一日）産業調査課立花昭

一、十月十九日　第一回総合エネルギー部会を開催、資源調査会副会長安芸皎一博士を主査に委嘱委員十九名を決定した　十一月十五日

一、十月二十日　第三回法制部会の開催、わが国の原子力法並びに関連する諸事情を聴取懇談した　十一月十日

一、十月二十日　第二回原子力講習会（第一日）申込多数のため第二組を編成、本日より第一回と同様毎週一回産業会館において開催　十一月十日

一、十月二十六日　第一回放射性同位元素部会の開催、わが国の放射性同位元素に関する実体把握についての検討を行った　十一月十八日

一、十月二十八日　経済部会主査として一橋大学教授中山伊知郎博士を依頼、委員十四名を選び、経済部会の開催、わが国原子力法の要綱の研究として北大教授金沢良雄、愛知大学教授入江啓四郎の両氏より各国の原子力法並びに関連する諸事情を聴取懇談会を開催、東京会館において顧問、委員他来賓百五十名の出席を得て第二回総会を開催、創立以来の事業経過と今後の方針について報告を行った。当日は英、米両大使、ホーラム会長、インド原子力庁長官バーバ博士よりのメッセージ、電力中央研究所松永安左衛門、経団連会長石川一郎、科学研究所会長亀山直人の三氏より挨拶が述べられた　十一月二十二日　原子力講習会（第一回第三日）の開催

◇…既刊資料…◇

一、十月二十五日　原子力情報（第十八号）刊行

一、十月二十五日　原子力新聞（第二号）刊行

一、十月三十日　初期の原子力発電所における発電コストとプルトニウムの価値（資料二十三号）の刊行

一、十一月十日　世界の原子炉表（資料第二十四号）の刊行

一、十一月十五日　原子力関係資料目録（第一巻第四号）の刊行

一、十一月十六日　ホーラム・メモ（第二号）の刊行

一、十一月十六日　ホーラム・メモ特別号（第三号）の刊行

静かなワシントン

……武谷清昭氏の米国便り……

走る電車さえ音たてず

日本でアメリカの原子力学校といわれているのは、アルゴンヌに在って、正式名は、スクール・オブ・ニュークリアー・サイエンス・アンド・エンジニヤリング（SNSE）と呼ばれている。この学校は、インターナショナル・コーポレイション・アドミニストレーション（ICA）の計画の一部なので、われわれの渡航証明書はG－一七の交換視察者である。十月二十五日羽田を発ち、二十九日ニューヨークに着き、LLから汽車で、三十日午前十時三十分ワシントンに到着した。

三十一日の月曜日から、ワシントン・インターナショナル・センターでワーン博士の指導で、アメリカの習慣、地理、歴史、政治、経済、教育、自由、ニグロ問題等について教育が始まったのである。この講義の間には、いくつかの映画がはさまれている。原子力合同委員会の中食会と最高裁判所図書館を見学した。また科学教育の盛んな大学進学率の高い公立ベテスダ高等学校の見学も行った。こうした教育方針を通じて、このSNSEが次第に組織化されて行くように感じた。

高等学校の見学には各国それぞれ自国語の話せる学生が説明してくれたことは興味深かった。ワシントンの町は街路樹の美しい静かな都会で、走る電車さえ音もなく紅葉の落ち葉を集める掃除機械を押して歩くニグロの人夫等を除けば、東京駅から堀端の辺りと全く遜わない風景である。こうした教育をワシントンで受けて十一月五日最終目的地であるシカゴに着いたのであった。

このクラス構成メンバーは、アメリカ二二、パキスタン一、タイ一、イタリー三、フランス二、トルコ四、スペイン三、フィリピン二、エジプト三、イラク一、ドイツ四、ベルギー一、チリー一、ノルウェー一、スウェーデン一、レバノン一、メキシコ一、イスラエル一日本四、ビルマ一、台湾一の二二ヵ国で総数は六十名である。

注　日本の四名は△東大生産研武谷清昭氏△工業技術院田宮茂文氏△資源技術試験所島飼喜一氏△電気試験所村田主進氏である。

（武谷清昭）

権力争い排せ

ジュネーヴ会議が終って、日本でも十月には原子力研究所が発足し、十一月には日米原子力協定が本調印を終えた。国会にも欧米の原子力事情を視察して帰国した議員によって、超党派の原子力合同委員会が作られ、原子力基本法要綱が発表され、次国会に提出されようとしている。去年の三月以来運輸運動を続けて来た日本の原子力開発もいよ〜スタート・ラインに立つまでに至った。走路のかなたを見わたせば、谷あり山あり迷路ありで、ゴールなどはとても見通せない。しかし一度出発したからは政界、学界、官界、財界四人五脚で歩調を合わせてしっかり進んでもらわなければ三年間に三百億という税金を負担させられる国民にとってこれほど迷惑な話はない。

ところがこの四人五脚の耐久レースは、スタート・ラインに立ったまではわかっているが、その後の歩みぶりは一体どうなってしまったのか、国会で出した原子力基本法案には政府がしぶい顔をしている。財界が音頭をとった原子力研究所は石川理事長はじめ十五人の理事は決まったが、肝心の所長以下幹部の人選となると前途りょう遠の感がある。理事人選にたいする暗闘の余じんいまだ消えやらずといった態だ。三年間に三百億という原子力予算には通産、経企庁ともに大分反対のようだが、原子力行政の一貫処理ということになると、各役所のナワばり争いで互にけん制し合っているらしい。学者側は学者側でやれ湯沸し型だ、やれCP－5型だと自分の主張だけで物をいって、一体どの型の原子炉ではどんな研究が出来るのか、日本の今後の原子研究にはどんな実験が必要なのか、今後どんな方向へ研究を進めて行く予定なのか、などという点になると互に

（立花　昭）

原子炉

賛助会員御案内

原子力平和利用調査会の経費の一部は財団法人電力経済研究所より助成されますが、本会より刊行する情報、資料などの配布を希望される向も非常に多数でありますので、この際本会事業の達成に賛助していただく方々と共に、別記の如き賛助会員制によりまして情報資料を御送り致したいと存じます

◇賛助会員の特典

1　原子力海外情報（原子力情報）毎月贈呈

2　原子力内外資料（年間二〇種類以上を予定）贈呈

3　原子力月例懇談会への案内

4　海外資料研究会への案内

5　海外資料のレプリント斡旋

6　内外原子力新刊書籍雑誌類のリスト提供

7　原子力開発について本会への特別調査依頼（但し特別経費を要するものは実費を申受く）

8　原子力図書の利用

◇賛助会員の会費

（イ）団体、会社　年額一口二万円

（ロ）学校、研究会　年額一口一万円

口数は何口でも入れます。多数御加入下さるよう御願い致します。

なお個人の制度は学者、学生等研究者の方々のために設けました。

（会費の納入は振替口座を御利用下さい　振替口座東京九八三八一番）

◇申込方法

申込みについては左記へお手紙、電話等にて御一報下さい。直ちに案内書、申込書を御送り致します。

東京都千代田区丸ノ内二ノ八三菱仲十二号館

原子力平和利用調査会

電話(28)二七七七、一七六八番

調査会の委員

◇会長

電力経済研究所理事長

電源開発株式会社総裁　小坂順造

◇理事

東京工業大学長　内田俊一

東京大学教授　大山松次郎

東京都民銀行頭取　工藤昭四郎

続核予防会専務理事　鷹部英雄

資源技術試験所長　黒川真武

生産性本部専務理事　郷司浩平

信越化学副社長　小坂徳三郎

参議院議員　後藤文夫

I・C・C事務総長　佐藤敬愛

日経連専務理事　鹿内信隆

科研主任研究員　杉本朝雄

朝日新聞監査役　田中慎次郎

電源開発秘書役　津野田知重

東京大学教授　中泉正徳

電力経済研究所常務理事　○橋本清之助

大阪大学教授　伏見康治

電源開発副総裁　勝井憲治

電気事業連合会専務理事　松根宗一郎

発送電興業社長　水岡平一郎

農業技術研究所長　盛永俊太郎

東京大学教授　矢木栄

科研主任研究員　山崎文男

東京大学教授　宗宮尚行

◇運営委員（○印は常任委員）

資源調査会副会長　○安藤良雄

参議院議員　石黒忠篤

国民経済研究協会理事長　稲葉秀三